

2020年6月9日7限目、4年生を対象に、体験イノベーションの外部講師による講演がスタートしました。今年度はコロナ感染症対策のため、会場であるマルチメディアホールには半数の生徒が入り、残り半数は教室で会場からのTV中継とGoogle ClassroomのMeetを利用したプレゼン投影の2元中継で参加しました。

第1回の講師は、株式会社中島商店の中島基晴さんです。「地域資源の有効利用による地域活性化を目指して」と題してご講演いただきました。中島さんは、家業の中島商店の代表取締役でいらっしゃるのですが、2004年に地域の仲間たちと備後特産品研究会を立ち上げ、「地域特産品を原材料とした商品開発」「地域資源を有効活用した商品またはサービスの開発」を通じた地域の活性化を実践されています。



福山は、岡山、広島の間位置し、新幹線、飛行機の利用にも便利な都市であること、しかし、大都市への人口流出、そして日本の人口減少の進行と人口構造の変化（高齢化）など、社会変化の中で地域コミュニティの維持が困難になっている現状がある。この解決のためには地域経済の活性化が急務になっており、福山だけでなく備後都市圏としての活性化をはかることが必要だと考えられます。そのような中、地元の地域資源、特にその土地で育まれた特産品を使ったビジネスをしたいと考え備後特産品研究会を立ち上げられたということです。

特産品とは、全国的に一定のシェアがあることなどの定量的な面と知人への贈り物にしたいなどの定性的な面をもったもので、備後地区には多くあります。その例として、くわいやちりめんの規格外品を利用した商品の開発、田島あさり「貝王」のお話、沼隈ぶどうを用いた高級ぶどうジュースの開発販売の話など、具体的事例をたくさん紹介してくださいました。このような開発や商売をするには、特産品からどんな商品を開発するのか、またそれを買ってもらえる市場をどうつくるのかを考えていくことが必要だと話されました。

備後特産品研究会を立ち上げてまず取り組んだのが「保命酒」をつかったお菓子プロジェクトでした。保命酒をつかった飴などを開発したが、それを広めるきっかけになったのがペリーの子孫の来日でした。「ペリー来航のときに飲まれていた」という伝承があり、ご子孫に飲んでもらいました。次の年、この伝承を確かなものにするため調査を行った結果、根拠となる文献を見つけ、保命酒にストーリー性に加わるだけでなく、その付加価値が上がったといった具体的なお話を伺うことができました。

備後特産品研究会とぬまくま夢工房で、地域の特産を地域の企業と一緒に楽しんで開発、販売することでWin-Winの関係で仕事ができ、「協働のものづくり」と「社会貢献」を根拠にした地域活性化型ビジネスモデルとして提案できていると話されました。また、バラの酵母を使った商品開発プロジェクトの事例では、地域活性化には産官学連携が重要であることを話されました。

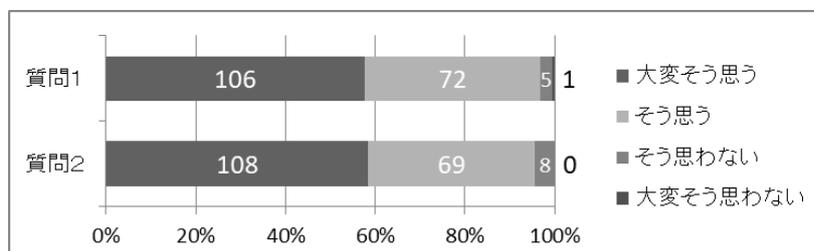
最後に、このような活動をしていくためには、価値ある情報をいかに見つけるかが重要で、いろいろな引出しを持つことや一つの事に集中して没頭できることを見つけることなどが大切で、高校時代に養ってほしいと話されました。

講演後の生徒のアンケートをまとめると以下のようになりました。

質問項目	
1. 今回の講演は興味・関心をもって聞くことができましたか。	
2. 今回の講演は新しい考え方や視点が学べるものでしたか。	

集計結果

*総数 185



〔生徒の感想〕

- 私は商品の開発，特に食品に関するものに興味があるので，すごくお話全体が聞いていておもしろかったです。その中でも，食品を作り出すことだけでなく，地域全体で販売のサイクルまで考えているという話が自分にとっては新しい視点だったなと思いました。自分の想像している中では，地域や社会は商品を買う対象であって，そこのつながりがこんなにも商品に関係するなんて思ってもみなかったのので，改めてすごいお仕事だと思いました。
- 地域に根ざした商品の特産品として売れるようにすると，高い値段で売ることができるようになるのでこのアイデアを使って衰退している産業を盛り上げることができればいいと思いました。私たちが住んでいる町だけど，知らないことがたくさんあるのを自覚しました。規格外商品はいままでは捨ててしまっていたけど，それを価値あるものにできるのは，ゴミを減らすことができ，生産者は利益を上げることができる上に消費者も新たな商品を手にすることができるので良い考えだと思いました。メディアに露出することによって商品を多くの人に知ってもらうことができるのでキャッチーなものが良いと思いました。
- 地域の活性化のためにはアイデアによって産業の基礎をつくり，それをみんなで関わり合うことで様々な人が利益を得ることができるのがすごいと思いました。これらをうまく働かせるためには，小さな気付きから新たな発見をすることが大切だなと思いました。
- 何か，今ないものを作り出すことも大切だけど，今ある物を無駄にしないこと，工夫した発想をもとに育成することが大事だと分かった。今，社会が抱える問題，地域にある課題を大小関係なく解決するために，周りの人たちと協力すること，自分のためだけでない Win-Win なことをすることを意識していきたい。
- 今回の講演を聴いて，自分が住んでいる地域には自分たちが思っている以上に魅力があるということがわかりました。本来捨てられてしまうものに価値を見いだすのは，ものを普通に売るよりも難しいし，工夫が必要だと思います。だからこそ完成した時や地域への貢献につながった時は嬉しいだろうなあと思いました。私は「協働のものづくり」と「社会貢献」というテーマが心に残りました。「協働」が「共同」ではないのは，「同じことを共にする」という意味だけではなく，「協力して働く」という意味もあるのかなという考えをもちました。次から買い物に行くときなどは，「福山の特産品」という目線を持って見てみたいと思います。
- 今まで，商品などを自分たちのアイデアを売り出すという職業について考えたことがほとんどなかった。とても新鮮だった。たった一つのアプローチで，今までずっと無駄にしていたものがなくなる場所は少し感動した。難しいことに直面しても「全てがうまくいくようにするのは無理だ」とすぐにあきらめず，最善の方法を探す姿勢を大切にしたい。
- 地元の商品の規格外品を捨てずに特産品として作り変え，その際に地元の多くの人で加工の仕事を分担し，その利益を地域開発に役立てることで廃棄物の減少や地域社会の PR や活性化，それに伴い人口減少の抑制などにもつながってくるということがわかった。市場で流通し，全国展開していくような商品を作り出していくアイデアがイノベーションである，と自分なりに理解することができた。

